

平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	幼児ことばの相談運営事業（福祉係）			会計	款	項目	大	小	
				01	03	01	02	01	05
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	障害者支援課					
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	小西 和典					

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	就学前の児童で、ことばの発達に遅れや障害のある児童	意図	ことばの遅れや障害に対して軽減または解消すること。
事業内容	流山市ケアセンター4階において、幼児期の発語の遅れや発音、吃音の状態に対して、言語聴覚士が専門的立場から症状の解消や軽減するための事業を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	現在、流山市ケアセンター内で支援を実施している。ことばの支援を希望する児童は、低年齢化の傾向がみられ、増加傾向にある。幼児ことばの相談事業は、平成16年度からつばさ学園療育相談事業と連動し、運営が行われるようになり効率的な運営になった。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	支援延べ日数	216	216	214	
②	支援延べ件数	1,315	1,450	1,255	件	→→	
③	支援修了人数		32	24	人	→→	
④	卒室人数		5	7	人	↑↑↑	
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト		平成24年度	平成25年度	平成26年度	26年度は、4月から6月までの間は、継続児12名、新規利用児が14名だったため、支援延べ件数は減少している。吃音を主訴にする児童に対して、後期よりグループ指導を取り入れた。児童同士が意識して会話をする為、効果は表れた。利用園児の状態を確認し、今年度も隔週の支援を行い支援枠の確保に努めた。卒室人数7名中5名は正常構音獲得した。2名保護者の希望である。		
事務事業の総コスト(a=b+c)		8,726,948	9,555,030	9,676,776			
事業費(b)(円)		8,368,048	9,205,680	9,331,313			
うち一般財源		8,368,048	9,205,680	9,331,313			
職員給与費(c)(円)		358,900	349,350	345,463			
人役・職員(人)		0.05	0.05	0.05			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価						

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	パソコンを購入し、個別支援計画書作成や事務作業が効率化し、保護者説明の時間の確保をする。児童発達支援センター化に向けての準備をする。（平成27年統合予定）	③取り組みの課題	一部事務改善したが、保護者への対応が増えて来た。支援員としての言語聴覚士の確保が課題となる。
②今年度(H26)に実施した取り組み	パソコンを購入し、事務作業の効率化を行った。児童発達支援センター化に伴う幼児ことばの相談室の役割、方針の確認をする。	④今後の改善計画	保護者への対応として、支援内容以外については対応者（相談員）を決め対応したい。言語聴覚士の身分の安定化を図る。